

二〇一七年二月一日

上つ張り着たり脱いだり年用意
理髪屋を出るや首筋空つ風
年の市ト口箱は潮したたらせ
花街の昼は閑なり路地小春
年少さんせりふひと言クリスマス
寺小春願ひの絵馬の犇めきて

二〇一七年二月四日

ポケットに両手突つ込み落葉踏む
古日記繰りてよかつた探しかな
四つ目垣真つ新にして年用意
ポインセチア並びしナース詰所かな
鴨の陣疎にまた蜜に池広し
年の市とゆきかくゆき足棒に

二〇一七年二月十三日

蓮根掘り終へて狼藉めく田んぼ
靴音に急きたてらるる町師走
誰にでも笑ふ赤子や日向ぼこ
徐にマフラーを解き切り出しぬ
水甕の薄氷指でもてあそぶ
凍てし朝まだ中天にヒ首の月

二〇一七年二月二日

夫と子の駒打つ音や林檎剥く
高僧ら綺羅の法衣に報恩講

よし女

三 刀

菜 々

宏 虎

ぼんこ

やよい

なつき

やよい

せいじ

うつき

たか子

菜 々

たか子

なつき

菜 々

うつき

三 刀

明日香

更 紗

はく子

城下町へと黄落の石畳

みどり

日向ぼこ猫が隣でいびきかく

宏 虎

水鳥の群なす池に冬日燦

みどり

駈けてくる子やマフラーを翻し

うつき

二〇一七年二月一日

ボンボリや手袋のまま手話弾む
きりなしと笑みつ園丁落葉搔
深々と夕帳落つ枯木立

智恵子
たか子
よう子

二〇一七年二月一日

庭小春どこかで携帯電話鳴る
ごみ拾ふボランティア皆サント帽
夜明ければ谷戸は一面雪景色
古暦うしろにつるす新暦

明日香
こすもす
隆 松
明日香

二〇一七年二月九日

多忙なるときの味方のおでんかな
青空へ金鈴散らす棟の実
吾の指につかまり立つ子家の春

たか子
三 刀
なつき

毎日句会みのる選・二〇一七年二月二七日